

「トータル・パーソン」を目指した健康教育活動

～高い知性と精神性を生かせる健康教育～

岐阜県立岐阜高等学校

1 学校紹介

本校は織田信長ゆかりの岐阜城の南、千年の歴史を誇る鶯飼で有名な清流長良川沿いに立地している。1 学年 9 クラス全校生徒 1,092 名。創立 146 周年を迎えた、歴史と伝統ある大規模進学校である。

「百折不撓」「自彊不息」の校訓のもと、「トータル・パーソン」の育成に向けた教育活動を展開している。また、昨年度から、個別のより高度な学習ニーズに応えるため教育課程を単位制へ改編し、グローバルリーダーの育成はもとより、個別の夢の実現に向けた支援を一層充実させることを目指している。



2 学校経営方針と健康づくり

〈学校教育目標〉

- (1) 「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、不屈でたくましい精神力を持った人材を育成する。
- (2) 「文武両道」をモットーとして、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな人材を育成する。
- (3) 勤労を尊び、思いやりと奉仕の心を持って社会に貢献する人材を育成する。

教育目標を達成し、将来目指す人間像は「トータル・パーソン」（知性と精神性を高い次元で融合した人間）である。その資質として、健全な心と体は不可欠であり、生命を大切にする心や態度の醸成、基本的な生活習慣の確立と自己指導能力の育成、個に応じた適時適切な自立支援を掲げ、健康づくりを保健厚生部、生徒指導部をはじめ学校教育活動に位置付け取り組んでいる。

3 健康づくりの推進体制

(1) 教職員の推進体制

- ① 校長 教頭 企画委員会（事務部長・各分掌長・教務副部長・学年主任）
- ② 各種委員会
 - ・ 学校保健安全委員会（生徒の健康、安全、環境についての企画・運営）

- ・安全衛生委員会（職員の健康、学校安全点検に関する報告・協議）
- ・防災対策委員会（防災計画について企画・運営）
- ・学年、年次関係者会議（兼アレルギー対応委員会、年次会・学年会ごとに、生徒一人ひとりの健康状態について情報共有と対策協議）
- ・保健厚生部会（関係行事、環境整備について協議）
- ・その他各校務分掌部会（グローバルリーダー養成事業計画、安全講話計画などの企画運営と改善・協議）

（２）学校保健計画・学校安全計画作成にあたっての配慮

「百折不撓・自彊不息」の校訓のもと、「トータル・パーソン」の育成を目指した教育諸活動を展開するために、学校保健計画と学校安全計画の立案においても、その理念を反映させている。

保健教育については、各分掌や教科が連携することで、多様な問題に俯瞰的視点で指導できるよう配慮している。また、快適で健康的な学習環境づくりに向けた環境衛生活動に力を入れ、各種検査を定期的実施し、結果を職員・生徒にフィードバックすることで環境づくりの重要性を意識させている。

4 特徴的な活動 ～ONE TEAMで実践する健康づくり～

（１）高校生のためのがん教育

今後、全国で実施される「がん教育」について、高校1年次の早い時期に学ぶことで、命の大切さと、がん患者への差別や偏見のない社会の実現に貢献できる生徒の育成を目指している。

① 保健の授業の活用

1年次の保健の授業で、養護教諭と保健体育教諭が連携・協力して授業を行なっている。前半は養護教諭から「がん教育」の必要性について、各種データをもとに日本人のがんの現状について説明し、特にAYA世代が抱える課題や支援策などを講義する。後半は保健体育教諭が最新治療法やがん検診に関わる時事問題などをテーマに、グループ討議を行う取組である。



【養護教諭（左）と保健体育科教諭（右）が連携・協力した保健の授業】

② 他教科との連携 地歴公民「現代社会」

自分たちが興味・関心のある新聞記事からテーマを設定し、ポスターの作成や発表を通して理解を深める授業である。がんについて興味・関心を高めるために養護教諭も授業に加わり、日本のがんの現状について説明する。



【ポスター作成】



【ポスター発表】

③ 講演会 「白血病と骨髄バンク」

本校では、年2回「図書館講演会」を実施している。そのテーマの一つとして、本校元教諭に白血病を完治した経験談を話していただいた。白血病との闘病生活や骨髄バンクの必要性について学び、白血病を体験した実話を聞きたいという生徒の声に応えた。また、がんに関する書籍を紹介するコーナーを図書館に設け、がん教育についての啓発も行っている。



【白血病治療の体験談を語る元教諭】



【がんに関する書籍紹介コーナー】

④ 通信や掲示物による教育

日常の授業や部活動に加え、多様な体験プログラムなどの行事が計画される中、がん教育を実践する方法として、文部科学省が提供する「がん教育推進のための教材」を参考にした通信「高校生のためのがん教育」（1号～12号）を発行している。保健室前に参加型のポスターを掲示し、わかりやすく「がんとはどのような病気なのか」から始まり、「検診と治療方法」「緩和ケアや患者の生活の質」へと理解から共生までを順序立てて学べるように工夫している。



壁新聞『がんについて』



【がん教通信】



(2) 環境衛生活動

① 生徒保健委員会の換気指導活動

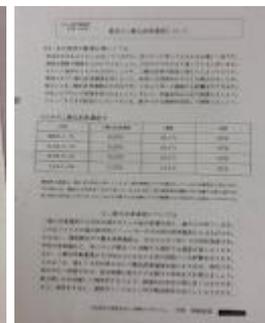
教室の空気を新鮮な状態に保つためには、換気をこまめにする必要があり、保健委員会では空気検査を日常的に実施し、その結果を通信「換気保健だより」として発信し、HRにおいて効果的な換気の方法を指導している。これは自らの健康を守る自立に向けた活動である。

② 学校薬剤師からの換気指導

冷暖房使用時、年2回の定期空気検査において、窓を開けることで二酸化炭素濃度が飛躍的に低下していく様子を測定器を用いて示し、換気の必要性を体感する指導を行っている。

③ 養護教諭の換気指導

職員に「授業が終わったら窓を開け、次の授業の先生が閉める」という習慣を徹底し、生徒だけでは補いきれない換気活動への協力を求めている。また、定期検査の結果は保健だよりに掲載し、生徒・職員に周知している。



【教室の空気検査と保健だより（右 保健委員作成）】

④ 「太陽の日」有志による校外清掃活動

日頃見守り活動をしてくださっている地域の方へのお礼の気持ちを込めて、年2回100名ほどの生徒がボランティア活動を行っている。

⑤ 勤労体験学習としての活動と生徒美化委員会の活動

年間 15 回程度、勤労体験学習として床磨き清掃活動を行っている。校舎を大切にすることを養うとともに、清潔な環境で学習に取り組むための活動である。

⑥ コンタクトレンズのリサイクル活動

HOYA 株式会社の「アイシティ eco プロジェクト」に参加している。使い捨てコンタクトレンズの空ケースを回収し、再利用された売り上げを全国アイバンク協会へ寄付するという活動で、ボランティア活動も兼ねている。



【ボランティア清掃「太陽の日」】



【床磨き】



【リサイクル活動】

(3) グローバルリーダー養成事業

本校では「トータル・パーソン」として、将来、国内外で活躍する人材に求められる素養を身に付けるための教育活動「グローバルリーダー養成事業」を展開している。本事業は基調講演と 4 つのプログラムからなる。そのプログラムの一つである「職業・学問体験プログラム」は、多様な分野の著名人や研究者から職業・学問について講演会や体験型授業を実施するプログラムで、健康・食・医療に関わる講演会等も実施している。

① 「地域医療の現状を知る」(講師：医師 他)

医師、薬剤師、臨床検査技師、看護師の方から地域医療に従事する専門職の立場として、医療現場での役割や高い専門性が要求されるチーム医療の大切さなどを学ぶプログラムである。

② 「医学・医療研究の進歩と未来」(講師：大学院教授)

筋ジストロフィーの遺伝子制御や、がん免疫療法、ゲノム編集など、めざましい医学の進歩と未来について見聞し、遺伝子やゲノムなどの知識が医療研究の積み重ねによって実用に至ることを学ぶプログラムである。

③ 「命の尊さ講話」(講師：医師)

生徒の自己肯定感を高めるとともに、様々な違いを持つ自他の個性を認め合い、互いの命を尊重する態度を醸成する目的で、HIV 感染や LGBT、薬

物依存など様々な角度から命の尊さについて学ぶプログラムである。

④「食ること・生きることを考える」（講師：栄養専門学校長）

和食の価値を通して、その素晴らしさや魅力、食の持つ可能性の高さと責任の重さについて理解を深めるプログラムである。



【医療従事者との座談会】



【医師による講演会】

5 まとめ

急速に変化する社会情勢の中、生徒が新しい時代を生き抜いていく力を付けるための健康教育は、学校教育の大切な部分である。そのための活動を保健教育だけでなくあらゆる教育活動を通して教職員が一丸となって協力し実践できていると自負している。これらの取組は、未来ある「生徒の心に火をつける」健康教育の実践であると考えている。

このような多様な取組後の感想やアンケートからは、例えば、がん教育では「この勉強をきっかけに自分から情報収集したい」「がんになったら終わりと思っていたが、本当は違うということがわかった」といった感想が出たり、グローバルリーダー養成事業では「自立は依存先を増やすことであり、多くの仲間を作ることが大切」「食と健康そして環境問題の大切さに関心を持った」「地域医療でのチーム医療について理解が深まった」など、今後につながる意見が出されたりした。こうした生徒の声は、今後も自信を持って取組を継続・発展させる活力となっている。

最後に課題として、健康に関する問題を自分のこととして捉えにくい高校生という世代に対して、健康に関する課題を意識させるとともに、健康を維持向上させる習慣を定着させる方法について研究を重ねていきたい。